イラスト：IKE／文：松井治伸

セルゲイ・プロコフィエフ

Sergei Prokofiev（1891–1953）

多岐にわたる才能をみせた鬼才

プロコフィエフは才気煥発（かんぱつ）。現代風の響きやスピード感があるかと思えば、民謡を思わせる素朴なメロディも登場するなど、多彩な表現で聴かせます。《交響曲第5番》は、祖国ソ連とナチス・ドイツとの戦争のただ中、「祖国のために」という思いから作曲されました。1945年1月13日、初演が始まろうとしたその時、ソ連軍がベルリンに向かって進撃中という知らせが届きます。祝砲が遠くで鳴り響き、演奏は始まりました。叙情的な始まりから喜びに満ちたフィナーレまで、プロコフィエフらしい才気がほとばしるこの曲は好評を博し、彼の代表作となりました。

B

2026 JANUARY
［第2056回］

自身の《交響曲第5番》を指揮するプロコフィエフ。大砲の音が遠く聞こえるなか、初演は大成功に終わったという

©IKE